



金曜日の朝、廊下を歩いていると、2年生に「ピーマンができた！ 見て見て！」と誘われ、学級園に連れられて行くと、つやつやのピーマンと、さらに、スーパーでもまれなほど大きなキュウリができていました。

いつもなら、たいていこの後のやり取りは決まっています。

「校長先生、これ、あげる。」

「いやいや、みんなが育てたものだから、みんなが持ったとき。」

「いいよ。あげる。」(と無理矢理押し付けて駆け去る)

「あ、ちょっと待って！」(と言いながら内心しめしめと思う。)

でも、この日は、自分たちで育てた野菜の収穫がよほど嬉しかったのでしょう。私の手には渡らずに、「とげとげがあるから痛いよ。」と呼びかけながら、友達の手に戻っていきました。

5月7日に苗植えをした夏野菜たちが、もうこんなに大きくなりました。

(5月7日のブログ「夏本番の頃には」は右の二次元コードから)



授業参観、ありがとうございました

この日の昼からは学習参観でした。

2年生は、「話そう 2年生の わたし」という国語の学習をしました。

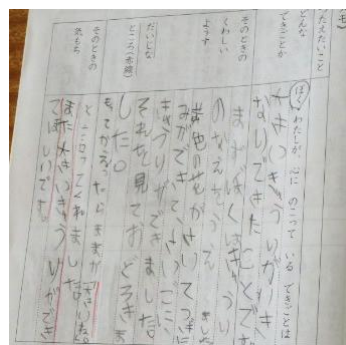
ある子は、キュウリを題材に、次のようなスピーチをしました。

ぼくが、心にのこっているできごとは、大きいキュウリがいきなりできたことです。

まず、ぼくはキュウリのなえをうえました。黄色の花がさいて、つぎに実ができて、さいごにキュウリができました。それを見ておどろきました。

持って帰ったら、ママが「大きいね。」と言ってくれました。

このスピーチを聞いたお母さんも、とても嬉しそうでした。キュウリを収穫できた嬉しさが、お母さんの嬉しさになりました。



【一生懸命書いたスピーチ原稿】

1年生は図画工作の勉強で、切り絵を作りました。「みんなで てをつないだ ○○を つくろう」をめあてにして、一人一人、作った作品を黒板上に並べていきました。1時間の学習の最後には、黒板はにぎやかになって、それを見た子ども



【1年生の作品が並んだ黒板(アート)】

たちは「いろいろな色があってきれい」「みんなが手をつないでいる」と感想を述べました。世界中の子どもたちが手をつないだような作品は、これで一つのアートでした。

一方で、「ぼくを見て」「私を見て」と言ってくるのは、自分を見てほしいからです。

子どもは、伝えたいことがあり、見てほしいものがあり、そしてそれを誰かに聞いてほしいのです。それをいつでもかなえてあげられる一番身近な存在が、家族です。